

令和 6 年 12 月 2 日 開 会

令和 6 年度第 9 回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第9回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年12月2日（月）	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 草野 浩一
午後2時 ↓	教育委員 明石 浩久	学校教育課長 川崎 史明
午後3時36分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和6年度第9回教育委員会定例会を開会した。

2 令和6年度第8回定例会会議録の承認について

令和6年度第8回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議事

報告第29号 令和6年度垂水市一般会計補正予算（第6号）案についての市長への意見申出について

議案第19号 令和7年度教育に関する予算についての意見の申出について

4 その他

(1) 令和6年度鹿児島県教育委員会各種表彰の受賞について（報告）

(2) 「今後の学校の在り方について」に係る第2回学校運営協議会での説明について（報告）

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第29号 令和6年度垂水市一般会計補正予算(第6号)案についての市長への意見申出について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、予算書案作成に急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの。		承認
議案第19号 令和7年度教育に関する予算についての意見の申出について	令和7年度教育に関する予算について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、市長に意見を申し述べるため、その意見の内容について、会議に付するもの。	特記事項なし	原案可決

議 事 内 容 等

3 議 事	
教育総務課長	報告第 29 号 令和 6 年度垂水市一般会計補正予算（第 6 号）案についての市長への 意見申出について （資料に基づき説明）
葛迫委員	補正予算というのは、このような修繕料というのが大半を占めるのか。 これまで 4 月からずっと使ってきている中で、台風の被害みたいに今まで 想定していなかった修繕であったり、いろんな災害などで復旧にかかるも のが多いのか。
教育総務課長	予算において、当初予算は年間全体を通じて様々な行事、事業等に要す る費用を計上するものですが、補正予算は今葛迫委員が言われましたとお り、突発的な修繕が出てきたときや年度途中で新たな事業を行う際、その 要する費用分を追加したり、また、例えば今の物価高騰の理由など当初予 算に不足が見込みまれる場合などに行うものです。
教育長	当初予算で賄えるものはいいのですけれども、今教育総務課長から説明 があったように途中で必要になることもあるし、途中から立ち上げる事業 だってあるわけですので、修繕だけに限らず、というところで必要なも のは補正であげるというところですよ。
葛迫委員	新しい事業を考えて「もっと予算を」というのが出てくれば、また楽し いのかなという感じがしますが、ありがとうございます。
社会教育課長	社会教育課分の金額があまりにも高すぎると思われますので、補足説明 をさせていただきます。 先ほど文化財保護費の委託料が 940 万円ということで説明がありました が、島津墓地墓石等の修復業務は、もともと年間 3,600 万円ぐらいだった のですが、今回、新たに 2 つ追加になったものです。 まず、1 つ目です。 災害復旧の修正設計と言葉的に少しわかりにくいと思いますが、この災 害復旧の設計業務は令和 2 年災害で島津墓地のとなりの敷地から土砂が崩 れてきて墓石が埋まったところを復旧させるもので、今後となりから土砂 が落ちてこないように擁壁を設置する、いわゆる境界の壁を作るというこ とになっていたものです。 擁壁という工法は、山の斜面が万が一崩れた時に土砂が敷地内に入って こないように、敷地内に壁を設置するという作業で、いわゆる台形の形の 長い壁を作るのですが、その壁は基礎となる地盤から打ち込んでする予定 でした。 今回、4 月から文化財専門員を新たに雇用することができましたので、 この擁壁の基礎から埋める部分について、再度地盤がどうなっているのか、 耐えられるのかの調査まで専門員が行うことになり、その地盤を調査したと

福里委員	ころ、擁壁を設置する予定のところまで墓石の土台があることがわかったところですよ。 そのため、当初の計画どおりに行うと、埋まっている墓石の土台を壊す恐れがあるため、工法を変更することになりました。 その変更する工法は、擁壁を設置するのではなく、法面に対して、よく治山工事で山に吹き付けているところを見かけるかと思います。 この工法の設計は通常 600 万ぐらいかかるところですが、変更になった工法の設計を短期間で行わなければならないため、約 900 万かかるということになったということでご理解いただければと思います。 今後、また何らかの機会で教育委員の皆様には、私が現場でご説明する機会を儲けようと思っております。 2 つ目は、台風 10 号被害による墓石の修復です。 これも 300 万ぐらいかかるのですけれども、「修復に 300 万もかかるの？」と思われると思いますが、文化財は小さい墓石が壊れたものでも、乾かして、くっつけてと修復にすごい日数がかかるものですから、なかなか費用がかさむものです。 前も定例会で教育長がおっしゃったと思うのですけれども、普通、修繕というのは、壊れたものを綺麗に直せばいいわけですが、文化財の修繕は、風化して壊れたところは触れないことになっております。 だから、完全に、綺麗に、新品にするのがものすごく安くで済むので、本当は墓石を新しく買えばいいところですが、文化財というものは、そうではなく、長い年数が経過して壊れかけている部分については、これから先、風化しないよう今の形を現存し残したうえで、壊れたところに細かいピンなどを打って、わからない形で修復するということから、手がかかる、その修復作業に日数が何か月もかかりこの値段になるということでご理解ください。 ですので、島津墓所の災害復旧関係は全部そうです。そこに億以上のお金をかけています。 新築で全部綺麗にして、墓石を持ってきたら何千万で済むと思うのですけれども、そういうことで費用がかかるとご理解いただければと思います。 ついでに、もう 1 点、光熱費の補正が 2 つあるのですけれども、これは文化会館のクーラー代とってください。 あそこは、ガスを燃料に運転する機械であるものですから、今年はイベント等で使用回数も増えたこともあります、今年は暑い期間が長かったことで、クーラーを使用する期間も延びたところです。 例年は、夏ぐらいで使用が終わるのですが、今年は文化祭の手前の 10 月いっぱいぐらいまでクーラーを使用していたため、期間が延びてこれだけの不足を生じたということでご理解いただければと思います。 今回の補正のことではないのですが、子供から聞いた話で、最近、子供がミシンを使うことがあって、「ミシンが 1 台しか使えないんだよね」と言うのですけど、それは市から予算をもらっているのですか。 垂水小のお金で買うのか、そこらあたり何もないのかなと、予算をもらわないと買えないものなのか、修理できないものなのか、わからなかったもので、お聞きするところです。今度学校に P T A でいくので聞いてみようかなと思っているところです。
-------------	--

教育総務課長	現在使っているものが壊れたら、基本的には教育委員会の方に報告があがってきますので、それから修理するという形になるのですが、そのミシンの件については、報告がなされているのかもしれませんが、私の方にはちょっと報告を受けておりませんので、正確な情報がわからないところですが、今お聞きしましたので、また小学校と連携をとりながら必要であれば修繕していきたいと思います。 また、今ある台数で使えるものを使っていくという形になると思います。台数自体が不足しているのであれば、授業に必要なものなので、必要なのは、しっかりと修理や購入していくという考え方で進めたいと思います。 (承認)
教育総務課長	議案第 19 号 令和 7 年度教育に関する予算についての意見の申出について (資料に基づき説明) (原案可決)
4 その他	令和 6 年度鹿児島県教育委員会各種表彰の受賞について (報告) (資料に基づき説明)
教育長	優秀教職員表彰を受けられた垂水小の坂中先生は、ご存じだと思いますけれども、栄養教諭として、献立表を非常に工夫されて、そしてこの物価高騰の中、なるべく食材はむらのないように、あるいは決められた無料化の予算の中で納まるようにという大変な涙ぐましい努力をされています。 ですが、物価高騰の波は止めることができず右肩上がりです。今後もまた少しずつですが、上がっていくことが想定されます。 そういう中で、彼女はよく食育の指導で各学校にも入っていくのですが、その指導も非常に子供にわかりやすい内容で、そういう面でも力も発揮されており、そのこともまた評価されたものだというふうに考えているところで、人間的にも非常にやわらかい方で、話しやすい気さくな方です。 併せて、2 ページに載っています垂水高校の受賞の写真が、上は鎌田校長が県の教育長から表彰されている様子で、下が生徒を含めて、担当の先生も入っています。 賞状を持っている方が、田方則子教諭で、この方も県の優秀教員表彰を受けています。 ちなみに、去年総務省の事業で全国大会までいきましたが、その指導者でもあります。

	それと今回、垂水高校から久しぶりに垂水市役所採用試験の合格者が出ました。 その指導も彼女が行っており、いろんな面で、垂水高校の屋台骨として頑張っている職員です。 私の考えとしては、坂中先生と田方教諭と一緒に、市長のところに表敬訪問に行ってもらって、市報で広く市民の方々にもお知らせしたいと考えているところです。 明石委員は県立図書館におられたからわかると思うのですが、高校でこういう読書指導の分野で表彰されるという事例はあまりないような気がします。 だから、非常に評価されて、いい取り組みだなと思ったところです。 こういうことが市民の方々に伝わっていくと、また垂水高校への志望動機になっていくのかなと思っています。
教育総務課長	「今後の学校の在り方について」に係る第2回学校運営協議会での説明について（報告） （資料に基づき説明）
教育長	第3回に向けて「その間、すること」について説明してもらえませんか。
教育総務課長	第2回学校運営協議会の説明の中で、「保護者向けにアンケートを行います」ということで、保護者に配るチラシも併せて説明しておりますので、11月の第4週目ぐらいから保護者向けにチラシをお配りし、読んでいただいたのちに、今年中にアンケートを回答する形をとっているようです。 併せて、学校運営協議会の委員には、地区公民館の館長または公民館主事がなられておられるようですので、これから公民館の会議等が開催される際に、そのチラシを活用して、地域の声を聞くというスタンスをとっていただいて、第3回の運営協議会の中で「地域ではこんな考えの方が多くいました」という声を参考にし、運営協議会の中でご審議していただいて、運営協議会として検討する会が必要か必要でないかの結論を取りまとめていただければと考えています。
教育長	アンケートの集約はどのようにされるか。
教育総務課長	集約は、学校の方がする形になります。 学校の安心安全メールを活用して行うとお聞きしておりますので、その回答は学校側に帰ってきます。 学校側が集約をして、第3回の運営協議会の中で「こういう結果でした」というふうに学校長、または教頭が報告されると考えております。 また、補足として、水之上小学校や協和小学校のところでは、今度入ってくる子供、幼稚園生の保護者に対してもアンケートをしたほうがいいかというご意見等がございましたが、今回の学校運営協議会では、今の学校を今後どうしていくのかを考える検討会が必要かどうかというところの段階ですので、実際に検討委員会が立ち上がった段階で、そういったよう幼

教育長	児の保護者の方々にもアンケートを実施できればと考えております。 この在り方検討委員会が立ち上がった暁には、今度は検討委員会が主導して、必要があればアンケートを取っていくとか、取るばかりではなくて、報告の義務も出てきます。また、在り方についてもです。 ここで結論を出すべきことでもないのですけれども、何か気になるとか、あるいは逆にこうしたらというような提案みたいなものあれば、また教えていただければと思います。 このことについては、次回でもまた話題にできればと思います。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
明石委員	寒くなって参りまして、日の出も日に日に遅くなっています。 一昨年まで鹿屋市の学校に通勤していましたが、この時期の朝6時20分頃、フェリー乗り場前の信号のところで、赤信号で止まっておりますと、いつも暗がりの中、車の前を横切る小さな黒い影がありまして、びっくりして何だろうと目で追ってみますと、当時、小学校1年生と思われる女の子でしたが、毎朝大体そんな時間帯に歩道を1人で歩いているお子さんで、今は3年生だろうと思います。 こんな暗い中をとると思うと同時に、本当に安全に登校してくれるように願わずにはいられませんでした。 右折左折で横断歩道を横切る車もいます。 青信号でも安全確認をして飛び出さないこと。 何か反射材のようなものを身に付けて、自分の存在を知らせるなど、この季節に応じた交通事故防止についてご指導いただけたらありがたいというふうに思うことでした。 それと、後でまた他の委員さんからも報告があるかと思いますが、11月13日の市の小中学校合同音楽会を参観しまして、5年ぶりに子供たちの合唱合奏を聞くことができました。 小学校は、学校としての伝統を大事にした演奏や、演出の工夫を凝らした合唱など、それぞれの特色がよく表れた発表となっていて感心することでした。 一方で、垂水小学校は「もみじの二部合唱」でしたが、ほとんどの小学校が斉唱の形をとっていました。 学校規模の関係でやむを得ない面もあると思いますが、学年が上がるにつれて歌声が重なり合って響き合う喜びを味わう、そんな経験は大切なことではないかと思いました。 中学校は混声合唱2曲でした。 校歌「永遠（とこしえ）のわれらが母校」は、周囲に聞こえないよう一緒に歌いました。本当にすばらしい校歌だと改めて感じることでした。 平成27年の合同音楽会のときに、中央中の子供たちの合唱に対して、講師の先生が、「堂々としていて気持ちがいい。あなた方は垂水の宝です。

	あなた方がいるだけで、垂水はどんなにいいまちだろうと思わせてくれる。」という講評をいただきました。 先ほどの小学校の合唱の話とも関係しますが、この音楽会での中学生に期待することは、小学生の皆さんに憧れを抱かせて欲しいということです。 中学生はすごいなと思わせ、あんな合唱がしたいと思わせる。これからそんな中央中の生徒であって欲しいと思うことです。 また、映像での出演となった垂水小学校金管バンド、そして垂水中央中学校吹奏楽部は、その演奏もさることながら光り輝く楽器も印象的でした。 かつて両校とも古い楽器を修理して演奏をしてきましたが、平成28年、29年に垂水市のご支援により、新しい楽器を購入していただいた経緯があります。 中央中では、平成28年の5月、校長室の広いテーブルの上に並べられた楽器を見た部員たちから大きな歓声が上がった思い出があります。子供たちは、どんなにうれしかったことかと思います。 金管バンドも、吹奏楽部も、部としての活動だけではなくて、入学式や卒業式、運動会、体育大会、学習発表会、文化祭といった大事な学校行事を彩ってくれる大きな力でもあります。 部員の確保、大変かと思いますが、充実した活動を続けていってくれたらと願っています。以上です。
教育長	5年ぶりでしたか。
明石委員	最後の校長を務めた学校の2年間は、1回も生徒の校歌を聞くことがありませんでした。 ということは、子供たちも3年間、ほぼ歌わずに卒業していっているの、先々みんなで校歌を歌うということも、あの世代の子供たちはないのだろうなと思っています。 私も1回、CDで儀式のときに流れるのを聞いたぐらいですので、歌えと言われてもなかなかなのが本当のところですよ。 それからすると、なんかとてもうれしく聞いておりました。
教育長	明石委員は校長時代、「歌声」と「挨拶」は本当に大事にされていました。それがいまだに垂水中央中は引き継がれているということは、またお感じになられたのかなと思います。
葛迫委員	今、資料を配りましたが、この話が来たのは、つい最近だったのですけれども、曾於市と垂水市、鹿屋市を中心に行われる「県民文化フェスタ in 鹿児島展示部門」というのが開催されるようで、その第1回実行委員会が、11月15日に曾於市の末吉総合センターで開催されました。 垂水市からは、私と社会教育課の川畑さんの2人が出席しました。 実行委員会が開催される1週間ほど前に、曾於市の実行委員長から私に連絡があり、「県の文化協会が主催して、大隅ブロックを中心とした文化フェスタ展示部門があり、その会場が県民交流センターでありますので、ぜひ実行委員をして欲しい。」と電話がありました。 びっくりしたのですけれども、承諾していつてきました。

この話は、以前からちょっと聞いていたのですが、私に話が全然振られていなかったの、思ってもいなかったというのが正直なところです。

というのも、「県民フェスタin鹿児島展示部門」の開催が、今、渡した資料にも書いてあるのですけれども、令和7年2月の27日から3月の2日までの開催ということで、開催期間まで後3か月しかなく、全然話が進んでいません。

「もう困ったな」と思っていたのですが、とりあえず行って話だけは聞いてみようと思って実行委員会に出席してみました。

出席されていた方々は、実行委員長の曾於市文化協会の会長さん、県からは県文化協会の事業部長、県文化協会の副会長の2人、地元大隅ブロックからは、鹿屋市の県文化協会の理事さん、垂水市の行政職員、そして美術関係が2人、書道関係が1人の9名が参加していました。

あと数名名前が挙がっていたのですけれども、ほとんどが欠席ということでした。これで話が進んでいくのかなと思ったのですけれども、協議の内容は、「規約の確認」、「実行委員の確認」、「開催要項の確認」、「予算の確認」、「今後の進め方」、「具体的な展示内容の確認」と協議が始まりました。

実行委員の確認は、県の文化協会の理事をされている方を中心に、大隅ブロックの理事を中心に、美術関係者が2人、書道関係者が1人、そして行政の文化協会を担当する職員で構成するということが決められていたところです。

開催要項の確認は、ここに示してあるとおり、「県民文化フェスタin鹿児島2024展示部門」を名称に、来年度もあるそうで来年は大隅ブロックの中で鹿屋市を中心としたステージ部門の開催が見込まれているようです。

主催は、県の文化協会、そして県民文化フェスタin鹿児島2024展示部門の実行委員会、共催に、鹿児島県ほかで、協賛に、九州文化協会、そして後援に、曾於市、垂水市、鹿屋市の教育委員会が入っていました。

日程が、来年、令和7年2月27日から3月2日まで。

会場が、鹿児島県民交流センター6階ギャラリーということです。

内容としては、テーマがありまして、「春の祈り、実りの秋」というテーマで開催ということでした。

予算の確認ですけれども、昨年が24、5万ほどでしたので、この金額ぐらい予定しているとのことでした。

不足分は、1冊500円ほどでテーマに沿った歴史的な祭りや、展示作品の説明を冊子として作成し、市民向けに販売を予定、そして、曾於、垂水、鹿屋市の文化協会から予算を捻出するということでした。

今後の進め方は、進め方といっても進め方がわからないような感じでしたので、こちらの方から「展示場のスペースの寸法を取り寄せてもらったらどうですか」ということで、「全体像がさっぱりわからないと作品の点数も決められないですよ」と言っても、あまりわからないようで、内容を全然把握していないようでした。

2、3日して、私が県民交流センターの展示部門ギャラリーに出向いて、その寸法表とギャラリーを見てきたところです。

そして、それを基に展示スペースの設計図みたいなものを作って、曾於と鹿屋市の美術担当者に作品展示氏名表を送ったところです。

最後に、展示内容ということで、「展示には“和田英作”や“吉井淳二”

	の作品をお借りできないか」という話もありましたが、「ん〜」という感じでした。 次回の日程を2月24日、場所を県民交流センターということで閉会したところです。 ちょっと感じたことは、少し安易な展覧会の概要になっているなと感じたところですが、予算の件もそうですが、展示は落下とか、そういう事故が一番怖いと思います。 これはやっぱり専門家に絶対やって欲しいと思いましたが、次回の話し合いの中でどう決着していくのか、先の見えない実行委員会だったのではと思ったところです。以上です。
田之上委員	13日に行われました小中合同音楽会ですが、鑑賞させていただきました。今年も牛根小学校の「ぶちあわせ太鼓」の演奏で始まりました。 この演奏は本当に子供たちが年々変わっていても、児童数に変化があっても、毎年素晴らしいレベルの太鼓の演奏を披露してくれて、すごいなと思いました。 少人数の学校の子供たちは、本当に大きな声で歌ってくれて聞いている私たちも元気が出ます。 また、大人数の学校の垂水小学校、中央中ではハーモニーの美しさを聞かせてくれました。 そして、聞いている子供たちの態度もすばらしく、静かに聞く曲、手拍子などで盛り上げる。また終わったときには大きな拍手を送るなど会場と演奏者が1つになって音楽を楽しんでいるようでした。 22日と26日に協和小学校と垂水小学校で、おはなし会を今年もさせていただきました。 協和小では、図書委員会の子供たちも毎年、2冊の絵本の読み聞かせをしてくれた後に、私たちも3つの話をさせていただきました。 図書委員の子供たちが協力して一生懸命に読み聞かせをしている様子が、とてもすばしかったです。 垂水小学校では、低中高学年の2学年ずつに分かれて行いました。 エプロンシアターやパネルシアターなど普段はなかなか目にしないものに加えて、大型の絵本で呼びかけをしました。 学年の枠を超えて同じ作品を読んだものもあるのですが、学年によって反応が異なり読んでいてこちらも楽しくなりました。 最後に、中高学年では、先月に亡くなられた谷川俊太郎さんの話をしました。 たくさん絵本や翻訳のものがあるよとか、楽しい詩や言葉遊びもたくさんあることを紹介して、最後に楽しい詩をみんなで読んで終わりました。 子供たちがこれからもお話を楽しんでやってくれたらいいなというところです。終わります。
教育長	おはなし会、この時期ですね、協和小と垂水小学校ですか。 いい時間を、ときを過ごしたのだらうなと思います。 谷川俊太郎さんが亡くなられたばかりというところで、子供たちにとっても身近な作家ですね。

	例えば、「スイミー」なんか教科書に掲載されていますし、そういうところとかで、知っている子供たちも多いはずですよ。 どこで反応するとか、反応の違いというのは面白いですね。
田之上委員	割と低学年の方が、どんどん返してくれるのかなと思っている作品でも、割と下の子たちは静かに聞いていて、学年が上がると反応がどんどん大きくなっていった高学年でも楽しんでくれるのだと思ったりしたところでした。
福里委員	私も1月13日に行われた小中合同音楽祭に参加させていただきました。 それぞれの学校の特色がよく出ていて、あっという間の時間でした。 今年は牛根小学校や協和小学校のように、先生方が子供たちに混ざってリコーダーや太鼓と一緒に演奏する姿があって、とてもいいなと感じました。また来年度も楽しみです。 11月18日の人権教育研修会に参加させていただきました。 人権という当たり前だけれども、とても難しい問題を自分の子供とか、幼稚園の園児に伝えるにはどうしたらいいのか、よく考えることがあります。うなずく内容ばかりでしたが、講師の先生の言葉で一番印象に残っているのは、「幸せだから笑顔になるわけではなくて、笑顔だから幸せになる」という言葉がありました。改めて笑顔とか笑っていることの大切さを感じました。 また子供たちにも伝えていきたいと感じました。以上です。
教育長	人権、あるいは人権研修会を受ける意味というのは今おっしゃっていただいたような気がしますけれども、年に1回、ないしは2回ぐらいは受けて、そして自分の人権とか、人権意識は大丈夫なのかなと振り返りの場面でもあるのかなという気がします。 それと、また「心理的安全性」という言葉をこの頃使いますが、そういう職場、あるいは学校でなければならないというようなことを言いますけれども、そういう新たな言葉もどんどんこの人権という学びの場で使われ、あるいは言われるようになってまいりました。 では、私の方からは、朝晩寒さを感じるようになってきましたけれども、昼間は日が差すと割と温かいです。 南国なのだなと改めて感じますが、学校も今落ち着いた中で、学期末を迎えようとしているようですけれども、よい学期の締めくくりにして欲しいなと思っているところです。 市の小中音楽会は、それぞれ委員の皆様方から報告がありましたので、多くは触れませんが、私は、保護者の方々の来場者が大変多かったように感じました。これはうれしかったです。 子供のすばらしい歌声を、演奏を、合奏を、聞いてくださる、とすると子供たちもやっぱり張り切ります。 そういう意味でも、また逆に子供のよさを見るいい機会なのかなというところで、来年度以降も多くの方々に来場していただければなと願うことでした。

あと、11月14日に19市の社会教育課長・生涯学習課長会が本市で開催されました。

この会に向けて社会教育課は、課長はじめ全職員で準備に当たり、当日の運営、そして情報交換会の1部、2部、そして次の日の視察、研修まできちんと最後までやり遂げてくれました。

昼間の研究協議も非常によくて、県教委の社会教育課長の話も今の課題を踏まえたいい話だったというふうに伺っております。

夜の部は、私も参加しましたがけれども、とてもいい情報交換会でした。

そして第2部、参加された方々の半分ぐらいの方々が参加してくださって、大変喜ばれました。

驚いたのは、19市のうち学校席の課長はたった2人しかおらず、鹿児島市と鹿屋市だけのようです。

まちの規模から言えば、始良とか、霧島とか、薩摩川内とかにもいいぐらいです。今学校籍は2人だけと、あとは、もともと市役所の職員の方が課長ということです。

去年、社会教育課長が参加されたときに、情報交換会が1部でサッと終わってしまうことに対して、一抹の物足りなさというか、情報交換を十分できないもどかしさ、さびしさみたいなものがあったということで、情報交換会は絶対1部、2部までするのだというところで、準備をしてくれてすごくいい交流ができたのではないかなと思います。

やはり、そういうのがあって、またそれぞれの地で持ち帰るものも多いのかなという気がするところでした。

11月19日、第2回の垂水高校の振興対策協議会が行われました。

教育総務課長を中心に、教育総務課の方でも準備をさせていただいて当日は垂水高校の報告、そして意見交換という流れになっていたのですが、大きくは2点です。

「入学者をどうやって今後確保していけばいいのか」ということと、「創立100周年に向けて、どういった事業展開を」といったようなことが話題になりました。

入学者の確保については、依然として厳しい現状が続いています。

だから、先ほど来、垂水高校の話題も出てきておりますけれども、垂水高校は少ないながらも、一生懸命、先生方もまた生徒も一緒になって結果も出してくれています。

それがなかなか伝わらないもどかしさというか、垂水高校から頑張ると市役所もおるし、国立大学にもいけるといふところを考えると随分進路は担保された学校なのだろうなと私は思います。

そういう意味では、そこが、あるいはなかなか背中を押してくれない。保護者の方々も含めてですけれども、本人も積極的に垂水高校に行きたがらないというところ です。

前、明石委員の方から、いわゆる鹿屋から見たところによるマイナスイメージみたいなものが、なかなか払拭できてない話があったところですが、どうやれば相手に届くような、そういう情報を発信できるのかというのを今後もまた検討していきたいと思います。

相手が欲しい情報がうまく伝わればいいのでしょうけれども、なかなかそこにたどり着かないというか、届かない、そういうもやもやしたものを感じながら、この会議に参加させてもらうことでございました。

	来年は創立100周年ということで、年間を通して様々な事業を実施するというふうに伺っておりますので、できましたら、教育委員の皆様も可能な範囲で、ご参加いただければありがたいと思います。 併せて、支援金というか、寄付金は350万を目標にと言っていました。 当初は1,000万だったのですが、少し現実が見えてきて、350万というところですが、私は350万以上が集まるのではないかなと思っています。 また善意が、そういう寄付がいっぱい集まればいいと思うことでした。 あと、11月20日、神奈川県琴平町の議員の方がお見えになり、本市のGIGAスクール構想の実施状況について、1時間半学んでいきました。 「なぜ本市なのか」というところもあるのですが、我々は、最後はもちろん教師の指導力を上げることもさることながら、「子供たちにいい教育を少しでもいい授業を、という思いでやっています」というところをお伝えしたところでした。 結構レベルの高い質問も中にはありました。 議員の方も事前のレクチャー、あるいは学びをしてからいらっしゃったのだなというのが見える研修会でございました。 だから、本市はこれまでも何回も視察を受けておりますけれども、「垂水市はかなり進んでいますね」ということをおっしゃってもらっているのが、また一方で励みになります。 これからも川崎課長、今村指導主事を中心に力強く前へ進めていきたいと思っています。 最後に、いよいよ人事が始まりました。 地区の校長研修会が、先週ございまして本格的にスタートでございます。 毎年100点を目指すのですが、人事で100点はなかなか厳しいのですが、風向きが変わってきたと思うのは、GIGAスクールを理解している、あるいは1人1台のタブレットを使った授業ができるという人たちが、だんだん垂水の学校の中に入ってきました。 ということは、きっと選ばれているのだなと思います。 そういう職員から、「垂水じゃないといかない」、「垂水で勉強したい」という先生方が増えてきているのではないかと思います。 これは非常にありがたいことです。 そうすると、我々もそういう先生方と一緒に、「いい教育を」というところで、またその人たちはやがて県下に散って行くわけで、さらに県全体のためにと貢献していきます。 このよき流れができていってほしいなということが私の思い、願い、希望であります。 ですので、これからも、もっともっとよい教員が垂水に来てくれることを願っています。 そこは指導主事も、管理職も、そして教職員も含めて子供たちのためにいい人材を、少しでもいい人材をというところで、職員の研修を川崎課長とまた今後頑張って参りたいと思います。 私からは以上でございます。
教育総務課長 学校教育課長	11月12日から12月2日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、12月3日から1月10日までの行事予定についてお知らせした。

社会教育課長	
学校教育課長	先週の水曜日、11月27日ですけれども、松ヶ崎小学校で今年度、市として最後の研究公開を行いました。 松ヶ崎小学校の研究公開は市の指定、それから小規模校の公開ということでしたので、どれだけ人が来てくれるかなというところを心配していたのですけれども、当日は30名以上の参加がございました。 教室は、もうきちきちという感じだったです。 牛根小学校と5・6年生の遠隔合同授業を行って、「複式指導の中での単式化」という授業をしていただきました。 それから、もう1つ、5・6年生は、両方とも予習型反転学習を算数の授業で取り組んで、学びへの活性化を図っていましたが、私は、5年生の授業を中心に見たのですけれども、松ヶ崎小学校は男の子が2人、牛根小学校は女の子が2人という組み合わせだったのですが、まるで本当のクラスメートのようにお互いに時々冗談をいい合いながら、にこやかに自分の意見を生き生きと伝え合っている姿というのが印象的でした。 また授業の進め方についても、担任の先生はいるのですけれども、複式ですから、ガイド学習をやっていますので、ガイドの子供が中心になって授業を進めて、先生が時々、「あれ、これってどうなの」、「ここもう少し考えてみようか」という形でコーディネートしているという雰囲気が見られました。 当日は、GIGAアドバイザーの辻先生も参加してくださったのですけれども、控室に帰った途端に、「これ、もしかすると、GIGAを使った複式指導の完成形かもね」というようなご意見もいただいたところでした。 授業があった後に、授業研究を行うのですけれども、松ヶ崎小学校の授業研究では、最初から小グループが作ってあって、先生方それぞれタブレット端末を持ってきましたので、スプレッドシートといって、1つの様式にみんなが書き込めるというソフトを使って、どんどん先生方が自分の考えたこととか気づきとか感想を書き込んで、それが1つに共有されるものですから、先生方も一瞬にして、「この先生、こんなことに気づいたのね」とか、「私と一緒にだ」というのを共有している姿も見られて、これも新しい研修の形としては、非常に有効だなというふうに私たちも見ていて思ったところでした。 いい最後の公開だったかなと思います。
教育長	今、松ヶ崎小学校の研究公開の話を課長がされましたけれども、私は、6年生を中心に見ていました。私の言葉で表現すると5年生は動的な学びをしていました。 一方、6年生は静的な学び、「動」と「静」という感じでした。落ち着いた中で、しっかりと子供が考えて、そしてお互いの意見を交流し合うという、どちらもいいなと思いました。 松ヶ崎の男の子2人は、もう名コンビでした。動的な原動力というのか、非常に活性化していくようでした。 逆に、6年生の1人は女の子だったのですが、おとなしいのですけど、しっかり考えているのです。

そこに私は感銘しながら、見ていたのですけれども、これは川崎課長の発案で、いわゆる複式の単式化というのをやったのですけれども、ずいぶん慣れた感じで、まさに違和感がなく授業を行っていました。

6年生では、三栖という先生が授業を行っていたのですが、授業中に3回ばかり席をはずすので、何をしているのかなと思っていたら、いわゆる形成的評価だったり、あるいは最終的な評価だったり、5年生の子供の様子を見みに行っているのです。

いつもは同じ教室で5・6年生の授業をするのですが、教室を分けたものですから、「見取りは担任でしましょう」という約束事ができているわけです。

だから、牛根小でも同様なことをされているというところで本当に1つの完成形という、辻井先生のお褒めの言葉をいただいて、ますます、また松ヶ崎小の先生方がやる気になってくれたのかな、あるいは他の先生方もいい刺激を受けたのかなという気がします。

先ほど授業研究のスタイルも変わってきたと話がありましたが、今までは付箋紙でやっていました。

このスプレッドシートというのは、打ってパットあげれば即共有できる、こんなは便利なものはないです。

だから、非常に効率的に話し合いもできますし、焦点化もしやすい。というところで、効果的な研修ができたのかなというふうに思っています。

いいやり方が本当に垂水は授業も授業研究も含めて出来つつあります。研究公開の在り方もずいぶんかわってきたように感じます。

6 閉 会